

## 平成24年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

石川県立金沢泉丘高等学校(全日制課程)

学校長 村澤 勉

### 1 教育目標

心身一如の発達につとめて

真理を求め、勉学を第一義とすること  
情操を豊かにし、品位を高めること  
誠実にして、社会から信頼されること

正義を愛し、自らを清くすること  
自らとともに、他の人格を重んずること

### 2 中・長期的目標

#### (1) 学校の現状

- ① 本校は、創設以来「心身一如」を校是とし、調和のとれた人材育成に取り組んできた。確かな学力を身につけさせるとともに、心身共に健全で品位と良識あふれる次世代を担うリーダーの育成をめざしている。
- ② 大学進学に関しては、県内有数の進学校としての実績を収めているが、全国を視野に高い志を掲げて学習させるとともに、第一志望を実現させることをめざしている。
- ③ 平成23年度に文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールの研究開発が3期目（5年間）の指定を受けた。生徒の興味・関心を高める指導法の研究をとおして、理数科だけでなく学校全体の活性化を図っている。
- ④ 今年度からはじまる「いしかわニュースーパーハイスクール」事業をとおして、人文科学、自然科学の両分野における幅広い知識を身につけ、総合力を備えた国際性に優れた次世代を担うリーダーの育成をめざしている。
- ⑤ 学校評価の実施、土曜スクール開校、校内職員研修の充実等を行い、保護者や県民から信頼される学校づくりを進めている。

#### (2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 確かな学力の育成  
進学実績の向上をめざし、質の高い教科指導と学習意欲に応える授業を組織的に展開する。
- ② 豊かな心の育成  
「心身一如」の具現化に向けた有意義な体験が展開されるよう、部活動・学校行事・社会奉仕活動等の環境整備を図り、「ふるさとを想ういしかわのリーダー」に必要な人格の陶冶をめざす。

#### (3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ① 組織の活性化と指導力の向上  
校務分掌において、副校長・教頭・主幹教諭・主任の位置付けを明確にし、学校運営の機能化を図る。教職員が互いに教育実践をとおして、計画的に指導力の向上を図る。
- ② 開かれた学校づくり  
本校の方針や特色ある取り組みを、積極的に県民に伝え、広く協力・支援が得られる学校とする。また、PTAや地域社会とも連携することによって、本校の教育活動が有機的に展開することをめざす。

### 3 今年度の重点目標

創立120周年にむけ、建学精神に基づいた教育活動の実践に努める。

- (1) 「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。
  - ・ 1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。
- (2) 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。
  - ・ 挨拶の励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。
- (3) 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。
  - ・ 保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携したボランティア活動の推進。

平成24年度 学校経営計画に対する最終評価報告

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
<p>「勉学を第一義とする」をふまえ、高い学力を身につけ進路志望の実現を図る。</p> <p>・1時間の授業の大切さを意識し、意欲的に取り組む。</p>	<p>① 校内研究授業や研究協議会などを通して、授業の質的な向上を図り、授業改善に取り組む。</p>	教務課	<p>【満足度指標】</p> <p>生徒の授業に対する満足度が高まった。</p>	<p>「授業が充実しているか」について、4段階評価の平均値が、</p> <p>A 3.40点以上</p> <p>B 3.35点以上</p> <p>C 3.30点以上</p> <p>D 3.30点未満</p> <p>※ 4段階評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よくあてはまる …4点</li> <li>・ややあてはまる …3点</li> <li>・あまりあてはまらない …2点</li> <li>・全くあてはまらない …1点</li> </ul>	<p>[判定] B</p> <p>4段階評価 平均 3.37</p>	<p>・校内研究授業を年間7教科で計画、実施しており教科の研究テーマに基づいた研究授業および協議会を開催している。また、教員同士の授業参観を一人平均7.9回実施した。</p> <p>・12月実施の「生徒による授業評価」で4段階評価の平均値は、3.37であった（昨年3.38）。</p> <p>・前期（3.34）でわずかにB判定に届かなかったが、生徒の状況把握、授業研究、指導法の研究等をおこなった結果、最終評価はB判定になった。熱意と分かりやすい授業を心がけるとともに、達成感のある授業展開に努め、学習意欲と学力の向上に結びつくりたい。</p>
	<p>② 基礎力の充実を大前提とした上で、難関大入試分析や東大・京大・医学部説明会等の充実を図る。</p> <p>3年生には、きめ細やかな指導ができるよう、模擬試験のデータ処理・分析等を工夫する。また、受験集団としての意識を高める工夫をしていく。</p> <p>2年生には、基礎力の充実に加えて、標準を超えるレベルの問題に対する対応力も育てる。</p>	進路指導課	<p>【成果指標】</p> <p>受験集団としての意識が高まり、東大・京大・国公立大学医学部の合格者が増加した。</p>	<p>東大・京大・国公立大学医学部合格者の合計人数（重複可）が、</p> <p>A 40人以上</p> <p>B 30人以上</p> <p>C 20人以上</p> <p>D 20人未満</p>	<p>[判定] C</p> <p>24人 (東大9人、京大7人、国公立医学部8人)</p>	<p>・成果</p> <p>① 3年学年団と連携して、記述力(国公立大2次力)を伸ばすために、i 平日補習を概ね大学別で実施した。 ii 2次試験直前まで特別補習を実施した。</p> <p>② 工学部だけでなく、経済学部・商学部、農学部生命科学系の講演会・説明会を新たに実施した。</p> <p>③ 東大・京大・医学部の入試説明会と情報連絡会を実施した。</p> <p>・課題と改善策</p> <p>① 東大・京大を中心とした6月からの添削指導については、方法・効果の検証が必要である。</p> <p>② 現1・2年は基礎力と教科バランスを重視した指導を継続していかなければならない。</p> <p>③ 理系の大学を目指して、理系のコースを選んでいるにもかかわらず、理系科目を不得意としている生徒の割合が高まってきているので、早急の対策が必要である。</p>
	<p>③ ホーム担任及び学年主任は、年間5回以上の個別面接指導を行い、生活面をはじめ、授業や家庭学習、校外模試に臨む姿勢など学習面について、個に応じた指導を行う。</p>	1学年 2学年	<p>【満足度指標】</p> <p>個人面接指導により、生徒の学習姿勢や学力が向上した。</p>	<p>「学年団の指導が、自分の学習姿勢や学力の向上に役立った」という生徒の割合が、</p> <p>A 90%以上</p> <p>B 80%以上</p> <p>C 70%以上</p> <p>D 70%未満</p>	<p>[判定] A</p> <p>学習姿勢や学力の向上に役立った 91.5%</p>	<p>・12月実施のアンケート調査で「担任等による個人面接が、自分の学習姿勢や学力の向上に役立っている」と答えた生徒の割合は91.5%であった（昨年度88.5%）。</p> <p>・各学年とも5回以上の個人面接を行い、学習・進路等についての相談を受け、個別指導を行った。また、生徒を励まし、高い志望を持たせるため、学年主任による面接も実施している。</p>
	<p>④ 授業内容をより充実させるとともに、朝学習や放課後補習・個人添削等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた指導を時機を逸することなく実施する。</p>	3学年	<p>【成果指標】</p> <p>個に応じた指導により、第一志望の大学への進学が実現した。</p>	<p>難関10大学及び国公立大学医学部の合格者が、</p> <p>A 100人以上</p> <p>B 90人以上</p> <p>C 80人以上</p> <p>D 80人未満</p>	<p>[判定] A</p> <p>101人</p>	<p>・進路指導課と協力して、東大・京大・医学部説明会や学年集会を実施し、生徒の進路意識・目的意識の向上に取り組んできた。また、授業の充実に加え、平日補習や添削指導等によって最難関大学入試に対応できる2次力養成に努めている。全体の成績は、外部模試での伸びは見られるので、今後、生徒の第1志望での進路実現に向け、現在の取り組みをさらに充実させていきたい。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<p>・一人一人の生徒に対する先生方の繋がり、思いや熱意を強く感じた。</p> <p>・SSHの活動を普通科にも広げて欲しい。</p>					
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策	<p>・現状に満足することなくさらに努力を続けていく。</p> <p>・SSHの活動の成果を、いしかわニュースーパーハイスクール推進事業の取り組みと連動させ、普通科の活性化を図る。</p>					

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
<p>2 「品位を高め、他の人格を重んずること」をふまえて、よりよき集団づくりを目指し、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。</p> <p>・挨拶の励行、体力の向上、環境美化、成果ある部活動と生徒会活動の活性化に努める。</p>	<p>① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高め心豊かで、将来リーダーとなる資質を育成する。</p>	総務課	【満足度指標】 講演会を積極的に評価している生徒の割合が大きい。	生徒によるアンケートで「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、(よくあてはまる) + (ややあてはまる)の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] B 12月実施の生徒アンケート 89% (昨年86%)	<p>・「生き方講演会」の講師は、宇宙飛行士の山崎直子氏。昨年は藤原正彦氏で、同じアンケート質問で86%で、高い満足度であったが、今年度はさらに高い評価となり、生徒の9割が生き方を考えるいい機会となったとしている。</p> <p>・来年度もさらに充実した講演会が開催できるよう企画していきたい。</p>
	<p>② 挨拶をきちんと行うことにより、相手を尊重する態度の育成を図る。教育活動のあらゆる機会を通して、しっかりとした挨拶の実行を促す</p>	生徒指導課	【成果指標】 しっかりと挨拶が出来る生徒が多くなった。	挨拶・会釈に関して「自分はしっかりと挨拶をしている」と答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[判定] B 12月実施のアンケートでは、 88.4%	<p>・自分自身の挨拶について「よくできている」「ややできている」と答えた生徒の割合は、88.4%であった。一方、本校全体では「よくできている」「ややできている」と答えた生徒の割合は、83.6%であった。挨拶は対人関係の第一歩であることからしても、しっかりと挨拶ができていない生徒が10%以上いるということに対して指導が足りなかったと反省している。</p> <p>・また、声が小さく元気がないという指摘や来校者に対する挨拶が十分でないという指摘もある。輪番制の登校指導で全先生方に協力をお願いしてきたが、登校時の挨拶運動だけでなく、授業の開始時等も含め学校生活全体を通して爽やかな挨拶ができるよう全先生方とともに指導していきたい。</p>
	<p>③ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図る。</p>	生徒指導課	【成果指標】 生徒主体の活発な部活動により、県総体の総合順位が上がった。	県総体の総合順位が、 A 4位以上 B 8位以上 C 12位以上 D 13位以下	[判定] B 5位 (昨年10位)	<p>・登山部がインターハイに出場した他、北信越大会には個人で陸上競技、水泳、柔道が出場した。県総体では、昨年より多くの部がベスト8に進出する活躍をみせた。数年ぶりに出場した冬季県総体でも個人で1位を獲得した。県高校総体の順位が上がったことでは、生徒の頑張りを表していると思うが、試合の結果以上に大切なことは有意義な部・同好会活動を行うことである。満足度指標のアンケート結果が高かったこと(「部・同好会活動は、自分の学校生活にとって有意義である。」と答えた生徒が95%)は素晴らしいことであり、熱心に指導にあたっての先生方の指導力とチームメイトを大切にする本校生徒の人間性の顕れであると思う。</p> <p>・運動部の加入率は昨年並みであり、下校時刻までの時間を有効に活用した活発な部活動が維持できている。</p> <p>・次年度は、今年度の勢いをさらに加速させ、より有意義な部・同好会活動になるよう指導していきたい。</p>
	<p>④ ISO活動を通して環境保全意識の向上を図る。 ①節電・節水②紙の節約・リサイクル③ゴミの分別の3点を大きな目標とする。</p>	保健環境課	【満足度指標】 清掃活動が充実し、学校の環境美化が進んでいる。	ISO活動の実践や広報を通して環境保全に関する興味・意識が高まったとする生徒の増加の割合(昨年度比)が、 A 10%以上 B 5%以上 C 0%以上 D マイナス	[判定] C 昨年度57.2%、 今年度57.9% で微増だった。	<p>・昨年度は震災の影響でISO活動(節電等)の意識が高まっていたが、本年度は意識が薄れる心配があったが、ほんの僅かではあるが上がっている。しかしその数値は他の項目に比べまだまだ低い。今後の社会生活にとっては非常に大切な活動だと、思われる。少しでも高まる様に工夫・広報・実践をしていきたい。</p>
	<p>⑤ 魅力ある充実した図書館を目指し、蔵書の電算化を活用し、効率的な図書検索や蔵書管理を行うとともに、図書コーナーを充実させるなど、読書・学習環境の整備に努める。</p>	図書課	【成果指標】 図書館の利便性が高まり、図書の貸出し数が増えている。	1年間(1月末現在)の本の貸出し数が、 A 4,500冊以上 B 4,000冊以上 C 3,500冊以上 D 3,500冊未満	[判定] D 1月末現在で 2,930冊と目標 の4,000冊を大きく下回った。 (昨年度 3,409冊)	<p>・4月は貸出し数693冊と順調な滑り出しであったが、5月359冊、6月245冊、7月312冊、8月94冊、9月131冊と次第に減少した。秋の読書週間(10月27日～11月9日)で、貸出し数増加に向けた取り組み(話題新刊図書の購入、図書館日よりでのPR、図書館オリジナルしおりの配布)を実施した結果、10月354冊、11月316冊、12月391冊、1月310冊と回復したものの目標の4,000冊には達しなかった。</p> <p>・しかしながら、図書館入館者数は、今年度1月末現在で15,855名と昨年度同時期の12,919名を大幅に超えており、生徒たちの間で図書館は、読書の場というよりも学習の場として活用されていることが浮き彫りとなった。</p>
	<p>⑥ 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間の連携を密にしながら、すべての生徒が希望を持って学校生活を送れるように支援する。</p>	教育相談室	【満足度指標】 気軽に相談室を利用することで、精神の安定が保たれるようになる。	相談室を利用した生徒による学校評価アンケートの「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、(よくあてはまる) + (ややあてはまる)の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	[判定] A 利用しやすい 92%	<p>・12月実施のアンケート調査で、相談室を利用した生徒のうち「気軽に相談でき、利用しやすい」との回答の割合は92%であった。</p> <p>・生徒が気軽に利用できるような相談室の環境を整え、問題が深刻化、長期化する前に担任や学年会、保健室等とも密に連携し、的確に対応する体制を整えておく必要がある。</p>

学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉学だけでなく、グローバルな人間性をそなえた生徒を育成していく努力を続けて欲しい。</li> <li>・トレードマークの勉学+人間性(例えば読書など)を伸ばしていけば完璧な学校になる。</li> <li>・自転車通学生の交通指導、ISO活動への理解と意識向上に取り組んで欲しい。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉学のみならず、品位や高い人格を備えた生徒育成のために、挨拶など礼儀作法、交通ルールの徹底、図書館や蔵書のPR、読書に親しむ機会を増やす努力をしていく。</li> <li>・ISO活動については、節電やゴミの分別など具体的な行動だけでなく、環境保全への理解と意識をさらに高める工夫をしていく。</li> </ul>

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
3 「正義を愛し、社会から信頼されること」をふまえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。  ・保護者懇談会、授業公開の機会拡大。地域社会と連携したボランティア活動の推進。	① 保護者懇談会、PTA 活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりをめざす。	総務課	<b>【成果指標】</b> 本校の教育に対する保護者等の関心が高まり、学校公開への参加者が増えた。	PTA総会、「いしかわ教育ウィーク」、「生き方講演会」の保護者・地域住民の来校者数の合計が、 A 1,000人以上 B 800人以上 C 600人以上 D 600人未満	[判定] A 計 1216 人 PTA 総会 829 人、「生き方講演会」は 223 人。「いしかわ教育ウィーク」 164 人。	・来校者数は、1216 人。昨年は 1055 人で、約 15 % 増加。 ・PTA 総会 829 人（家族を含むと 900 人）。昨年 805 人。 ・「生き方講演会」は 223 人が出席。講師は有名な宇宙飛行士の山崎直子氏ということもあり、多くの PTA が出席した。 ・「いしかわ教育ウィーク」参加者 164 人（うち一般参加 41 人）。昨年は 108 人で、かなり来校者が増えた。 ・12 月のアンケートでは、「学校は開かれた学校づくりに積極的に取り組んでいる」と答えた保護者が、94 %（昨年 93 %）であった。 ・今後はさらに様々な工夫をして来校者を増やしていきたい。
	② 理数科 1・2 年生が「創立記念祭における理科教室」、「中学生サイエンスフェア」及び「高校生による青少年のための科学の祭典」等において、小・中学生を対象にした理科教室を開講し、科学教育の面から地域に貢献する。	SSH 推進室	<b>【満足度指標】</b> 「理科教室」の運営を通して、生徒の地域貢献に対する意識が高まる。	理科教室を開いたことを「大変良かった」または「良かった」と回答する理数科生徒の割合が、 A 90 % 以上 B 80 % 以上 C 70 % 以上 D 70 % 未満	[判定] A 実施後のアンケートの結果、「大変良かった」または「良かった」と回答した生徒の割合は 100 % であった。（64.1 % + 35.9%）	・1 年生理数科生徒による「理科教室」は、事後のアンケートの結果、本校の生徒にとっても参加者にとっても満足度の高い取組となっていることがわかる。是非、今後も続けていけばよい取組であると考えている。しかし、今年度の参加者に対するアンケートの回収率は 60 ~ 70 % 程度になると思われる。次年度以降、「理科教室」の実施内容の改善を工夫するとともに、外部参加者のアンケートの回収率を上げるなどしてより正確な評価がえられるよう方策を講じる必要がある。
	③ ホームページの更新を定期的にを行い、各種行事・部活動・SSH の様子や教育課程・進路などの情報を、よりわかりやすく発信する。	情報管理室	<b>【満足度指標】</b> 「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という項目の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が、 A 90 % 以上 B 80 % 以上 C 70 % 以上 D 70 % 未満	「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」という項目の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合が、 A 90 % 以上 B 80 % 以上 C 70 % 以上 D 70 % 未満	[判定] B 学校の様子がわかる 81.2 %  （昨年 84.1 %）	・12 月実施のアンケート調査で「学校のホームページにより、学校の様子がわかる」と答えた保護者の割合は、81.2 % であった。 ・公式HP の更新回数は 1 月末で 31 回であった（昨年 38 回）。毎月の食堂メニューの掲載や総体・総文、新人大会後の成績発信は、各部からの更新情報を得るたびに、随時アップするなどきめ細かく行うことができている。 ・今後とも、タイムリーな情報提供を行っていきたい。
	④ 「学年だより」、「進路だより」等を通じて、生徒の学校での様子を伝えるとともに、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。	1 学年 2 学年 3 学年	<b>【満足度指標】</b> 学校からのたより・通信等は学校の様子についてわかりやすく伝える割合が高い。	学校からのたより・通信等は学校の様子についてわかりやすく伝えているとする保護者の割合が、 A 90 % 以上 B 80 % 以上 C 70 % 以上 D 70 % 未満	[判定] B 学校の様子が分かる 83.4%	・各学年の「学年だより」は、1 年 6 号、2 年 7 号、3 年 10 号を発行、あるいは発行予定しており、学年であった行事の報告や保護者へ伝えたい情報を載せている。また、「進路だより」は、1 年 11 号、2 年 18 号、3 年 11 号を発行、あるいは発行予定しており、勉強の心構えやテスト範囲・講評などを載せている。保護者にはよく読んで戴いており、面談の折にも的確に本校の現状把握がなされているように感じられる。生徒経由の場合、一部の生徒で保護者に渡さない者がいるので、教育上もしっかり渡すように指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・「生き方講演会」は講師も魅力的で充実した取り組みになっている。 ・理数科生徒による「理科教室」等の取り組みは、SSH の成果の地域への還元という点ですばらしい。また、生徒自身にとっても良い経験となっているのではないかと。					
学校関係者評価委員会の評価結果をふまえた今後の改善策	・「生き方講演会」は PTA とも連携して実施しており、H25 年度の講師は前大阪大学総長の鷲田清一氏を予定している。 ・「理科教室」等の取り組みは、内容を改善しながら継続していく。					